

平成31年度白老町統一学力調査〔標準学力調査〕結果 概要

平成31年度に実施いたしました白老町統一学力調査〔標準学力調査〕の結果についてご報告いたします。

1 実施調査 標準学力調査〔東京書籍〕

2 調査目的

- (1) 教育委員会及び各学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

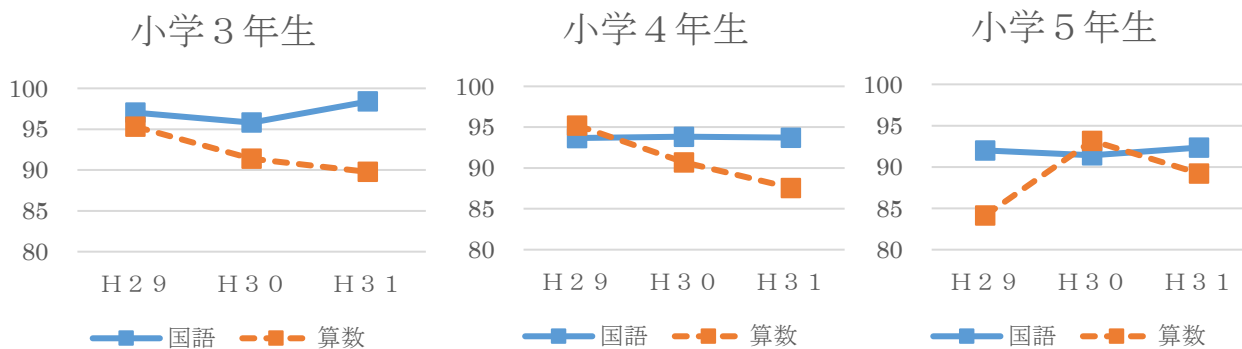
3 実施日 平成31年4月18日（木）

4 実施学年、実施人数

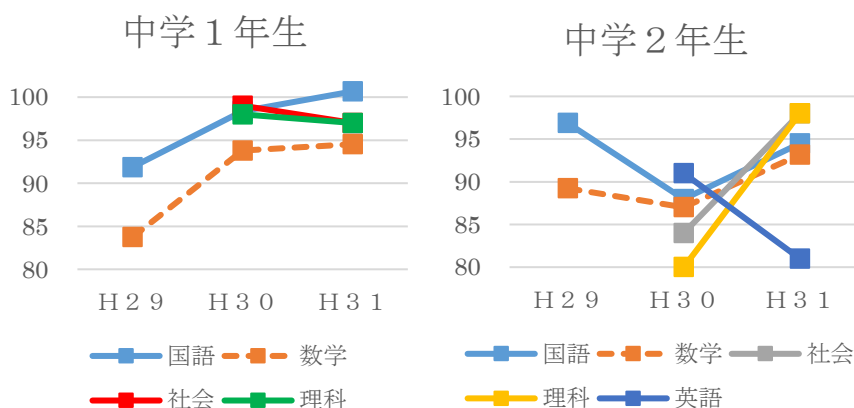
- (1) 小学校 3年生…90名 4年生…102名 5年生…79名
- (2) 中学校 1年生…94名 2年生…91名

5 調査結果（全国平均を100としたときの、白老町平均の経年変化）

(1) 小学校



(2) 中学校



5 各学年の傾向

(1) 小学校

<3年生>



- 全体平均が昨年度を上回り、全国平均と同程度となっています。
- 「書くこと」「読むこと」の領域は、全国平均と同程度以上の定着が見られます。



- 全ての領域で、全国平均を下回っています。
- 問題で問われていることを、言葉や式で答える記述式の問題を課題としています。

<4年生>



- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は、全国平均と同程度の定着が見られます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「書くこと」の領域の定着が課題です。



- 全ての領域で、全国平均を下回っています。
- 基礎的・基本的な知識を活用して解くことを課題としています。

<5年生>



- 全ての領域で、全国平均を下回っています。
- 問題で指定されている条件に合わせて書くことを課題としています。



- 全ての領域で、全国平均を下回っています。
- 問題で問われていることを、言葉や式で答える記述式の問題を課題としています。

(2) 中学校

<1年生>



- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国平均より高い傾向となっています。他の領域についても全国平均と同程度であり、国語の基礎的な力や活用する力が身に付いています。



- 全体平均が昨年度を上回っています。
- 全ての領域で、全国平均をやや下回っています。
- 問題で問われていることを、言葉や式で答える力が身に付いています。

<2年生>



- 全体平均が昨年度を上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は全国平均と同程度の定着が見られます。



- 全体平均が昨年度を上回っています。
- 全ての領域で、全国平均をやや下回っています。
- 資料から分かることを、言葉や式で答える記述式の問題を課題としています。